



第200号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会理事長
成田 茂
編集人 会報編集委員長
朝間 春子
印刷所 須坂新聞社

主体的な参加・参画で職能向上を

理事長 成田 茂

本年度教育会理事長を務めさせていただくことになりました。未熟な私ですが会員の皆様方のご支援ご協力をいただきながら精一杯任を果たして参りたいと存じます。よろしくお願いいたします。

自己課題として

今の学習指導要領が実施され、三年目を迎えます。

学校週五日制のもと、ゆとりある教育活動を展開し、子ども達に基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ってまいりました。また各校の裁量により創意工夫を生かした特色ある取り組みを行うことによって、知識や技能を身につけることに加えて、学ぶ意欲や自ら考える等「生きる力」を育むことをねらってきました。

各校においては、その趣旨を生かし、子ども達に学びの姿として具現されてい

るかと思えます。

その一方、学力問題等から生じた発展的な教材なども位置付けられた学習指導要領の一部改訂や外部評価も加えた学校自己評価の公表、自ら課題を設定し自己評価を行う教員評価、指導力不足等教員への対応など、教育を取り巻く社会にも様々な改革や教員の資質向上に向けての施策や制度の導入が進められており、今まで以上に学校や教員の力量が問われています。私たち一人一人は職能向上を自らの課題として主体的に捉え、会員相互の連携を強くし、二十一世紀を生きる子どもたちのために課題解決を図っていくことが大事と考えます。

主体的な参加・参画を

上高井教育会の特徴的な活動の一つとして全員参加・参画による研究委員会があ

的な活動によって自己研鑽を図る機会となります。信州教育を支えてきた先輩諸氏は、昔からこの自発的な研修を「手弁当」で行い、自己を高めてきています。先人の思いを大事にすると共に、会員全員が同好会に参加し、研修を深めてほしいと願っています。

開かれた教育会に

昨年度、教育会館のコンピュータが新しくなり、今年は各室にランが設置されましたことを受けて、委嘱委員会に「情報発信検討委員会」が作られました。教育会活動の様子や会員が活躍している様子を会員ばかりではなく、地域の皆様にも広く発信し、親しみの持てる、開かれた教育会にしたいと思っています。

同好会では、夏季講習会等において会員以外の方にも参加を呼びかけて進めております。

信教総集会協力に感謝

六月五日の信濃教育会定期総集会には係として、合唱団員として様々なところで活躍いただいた会員の皆様、本当にありがとうございました。お蔭様で総集会も無事終わりました。参加者全員の心が一つとなった最後の「信濃賛歌」も素晴らしく感動いたしました。感謝申し上げます。

(高山小)

教育会だより

- | | |
|------|--|
| 4・1 | 選挙公示(役員選挙) |
| 4・2 | 第1回代議員会 |
| 4・5 | 第2回選挙管理委員会 |
| 4・6 | 第3回選挙管理委員会 |
| 4・7 | 第4回選挙管理委員会 |
| 4・9 | 副理事長・理事・信教常任委員・信教代議員選挙 |
| 4・12 | 第5回選挙管理委員会 |
| 4・16 | 第1回理事会 |
| 4・21 | 臨時代議員会 |
| 4・22 | 第6回選挙管理委員会 |
| 4・27 | 監事選挙 第7回選挙管理委員会 |
| 5・7 | 信濃教育会定期総集会推進委員会 |
| 5・13 | 教育会会計監査会 |
| 5・14 | 第3回代議員会 初任者歓迎会 |
| 5・17 | 研究総委員会・同好会発足(於 須坂小学校) |
| 5・21 | 研究委員会・同好会世話係・委員長・会長会 |
| 5・22 | 第2回理事会 |
| 5・28 | 教育研究集会三団体代表者会 |
| 5・31 | 郡総会係会 |
| 6・5 | 郡研究推進委員会① |
| 6・9 | 信濃教育会定期総集会推進委員会⑤ |
| 6・15 | 総会前日準備 |
| 6・19 | 教育会定期総会・講演会(於 須坂市文化会館) |
| 6・22 | 平成16年度事業計画並びに予算の承認 |
| 7・22 | 〇会員意見発表
丸山和男 教諭(小山小学校)
「情報教育を通して学んだこと」
〇講演 講師 田中統治先生(筑波大学教授)
演題「評価からはじめる学校改善の試みについて」
研究委員長会
郡研究推進委員会②
信濃教育会定期総集会係会
信濃教育会定期総集会前日準備
第118回信濃教育会定期総集会(於 須坂市文化会館)
第3回理事会
郡研究推進委員会③
同好会②
第4回代議員会
上高井教育会会報第200号発行 |

授業評価からカリキュラム改善を

研究委員会会長 黒岩 和博

本研究委員会では、昨年度に引き続いて筑波大学教授田中統治先生を中心講師にお迎えして「新しい自分に気づき『生きる力』を育むカリキュラムの創造」をテーマに研究を進めてきています。

研究の方向としては、学習指導要領の趣旨に基づき、児童生徒の自己の可能性を開発し発揮させながら、「より良い自己を生涯探し求め続けていく教育への質的転換を図ること」が求められています。そのため、児童生徒が生きていく上で必要となる「基礎的・基本的な力を身につけること」「自力で問題を解決していく力をつけること」「共に生きていくこととする心を育むための教育のあり方」を採っていきたいと考えます。

教育現場の最先端にいる私たちは、「目の前にいる、この子をどうするのか。」「いつも子どもを前に据えながら、学校教育目標の具現のために日々の教科学習を中心にしてすべての教育活動の指導・支援に当たっています。従来、私たちは学習指導・授業づくりをテーマにしての研究が主流であり、どちらかというと内容や方法論に力点が注がれてきました。最近では、「指

導と評価の一体化」についての研究がクローズアップされています。

本研究委員会は、中心講師の田中統治先生のご指導のもと、カリキュラムの研究に着手し、研究を深めてきています。狭い枠組みの中での研究から大きく広がるのある研究だけに、具体的にどのような構想で授業を仕組み実証したらよいのか、戸惑いを隠しきれないでいる先生方の声も多く聞かれました。

今年度の講演では田中先生から次のような点についてご指導いただきました。

★カリキュラム評価を日常的に行っていく、その手立ては授業評価を考えていくこと

★単元の終末時に授業評価をすることがよい

★理解度調査として授業評価を実施することにより

★その授業評価を積み重ねてデータ化すること

★それが授業改善、カリキュラム改善につながっていく

★評価を前向きに受け止めていくことが大切、教育の質を保障していくものである。

各委員会で参考になれば、その貴重な資料を田中先生からお預かりしていますので、活用し、一層研究を深めていただければ嬉しく思います。

(須坂小)



須坂小 齋藤俊道

本校の中核活動

運動会で大事にしたいこと

相森中学校

今では県下三校のみの実施となつてしまつた中学校の運動会。本校では校訓「壮心不已」のもと、学校教育目標「優しさと輝きのある中学生」の具現の場として位置づけられ、今年度で五十七回目を迎える運動会と言え、以前は体育学習発表の場とも捉えられていたが、現在は少しずつその様子が変わってきているように感じる。

運動会をする側の立場で創られてきた運動会が、見る側の参加も含めた方向へと移行してきているように思う。その結果、種目一つ一つの質の高まりよりも、運動会全体を通

して企画・運営する力、マネージメントする力を重視するようになつてきている。本校では生徒の主体性をいかに引き出し、運動会であらう「つきたい力」にどう迫っていくかが最近の課題となつていて、「どこまで生徒に任せ、職員はどこで生徒とかわるか」が、毎年頭を悩ませるところでもある。生徒の意識を大切にしたいという思いを強くすると、過密した日程で焦りを感じる。計画を重視し過ぎると、その過程における変更には大胆さが持てず、一回性の価値を失つてしまうことも懸念される。しかし、計

画の段階から準備の段階、そして当日まで、生徒とともに試行錯誤を繰り返していくことは、私たち教師にとっても貴重な学びの場となつていく。

一昨年度は朝から降り続く雨に感わされながらも、生徒と職員が一緒にたつて実施可否や方法について話し合い、水たまりのできたグラウンドを泥だらけになつて整備した。昨年度は生徒会が企画して行った種目「大縄跳び」で、学年の枠を越えたつながりを持ち、生き生きとした姿を見せてくれた生徒たちを記憶している。

生徒たちは今年も運動会を楽しみにしている。「運動会は相中がずっと大切にしていたものだから、ここで終わらせちゃいけないと思う」「これからもう続け、新しいものに



行進する3年生

したい」「今まで以上のものを創りたい」と生徒たちは言う。また、地域の行事としての広がりも期待されている運動会だけに、相中の特色として大切にしたい行事でもある。第五十七回の運動会は一回きりであることを再確認し、今年も準備を始めたと思う。

(北垣内博)

平成16年度 県外視察者 上高井教育会(敬称略)

学校名	氏 名	視 察 目 的	視察方面	実施期間
栗ガ丘小	綿田由紀子	学力を育てる学校一学びの基礎・基本一	関西方面	8月中
高山小	北澤 晃	図工・美術教育について	上越方面	10～11月
須坂小	久保田啓一	人権教育のあり方	大 坂	11月27～28日
小山西	依田 周二	国語科における話し合う力を高める指導のあり方	東京方面	10月頃
小山西	佐藤真理子	教師と子どもたちで作り上げていく授業のあり方	茅ヶ崎市立 浜之郷小学校	9月又は10月
森上小	武居 敦子	小学校における英語教育	横浜市	9 月
日滝小	児玉 明代	算数・数学教育の実践に学ぶ	愛知方面	未 定
高甫小	小林 都史	JRIC読み聞かせサポーター講習会	東京都	8月29日
旭ヶ丘小	平林 徹	子どもの願いを大切にしたい総合的な学習と教師の支援	千葉市立 打瀬小学校	10月頃
豊丘小	山口理恵子	音楽の指導法について	東京方面	2学期
小布施中	川嶋 敬可	確かな学力の定着と評価について	上越教育大 附属中学校	11 月
高山中	吉澤 孝志	自然を取り入れていく教育実践のあり方	山梨県上九一色 村立精神小学校	8 月
高山中	井口 正敏	学級づくりと集団カウンセリング	新潟県 鳥屋野中学校	10～11月
常盤中	五味 大仁	数学における選択、コンピューターの活用	東京方面	10～11月
相森中	今井 一弘	不登校生への援助の方策を探る	三重県 上野市	6月下旬
相森中	桂本 和弘	学力の向上と諸問題 その解決に役立つ理論的・ 実践的な指導法のあり方	東 京	7月28～30日
墨坂中	飯泉 大輔	「学びの共同体」システム作りの実際	茅ヶ崎市立 浜之郷小学校	9 月
墨坂中	宮下 正己	見ることつくること一子供とアートの関係一	京都市	10月30～31日
東 中	北村 雅	数学のカリキュラムと評価	九州方面	8月1～5日
東 中	松澤智恵子	総合的な学習(交流・人間関係づくり)	鳥取県 赤碕高校	未 定

仲間と共に

同好会会長 清水 真

教育界というか、私たち教師社会で昔から言い伝えられてきた言葉に「教育は人なり。人は教師なり。」という名言があります。時代の変遷にともなう教育に関する法や制度がどう変わろうと、いかに施設・設備面の充実・改善が図られようと、また次々と新しく有能な機器・教具等が開発されようと、真に教育の実を上げる最後の決め手となるのは教師である。すなわち学校における教育の成果は、私たち教師一人一人がどれだけ教育のプロ（スペシャリスト）としての実力（人間的魅

子どもの本研究同好会

子どもの本研究同好会 竹前おと江

「子どもの本研究同好会は、昨年度より充足された新しい同好会です。」

日々の学校生活の中で読み聞かせや、パネルシアターを行い、子どもたちと共に楽しく物語を味わってみたいので本の幅を広げたい・、教科学習の導入・発展として単元に関係した本・絵本を知りたい・といった先生方の想いから生まれました。昨年度行った活動は大きく二つありました。一つは、子どもたちに読み聞かせたい本を会員の先生方

力や高い倫理性と指導力）を持つているか、どこまで情熱と愛情とズクを持つて、毎日児童・生徒に向き合えるかに左右されるという意味だと考えます。それだけに、成長発達途上にある児童・生徒の前に立つという責任ある立場に身を置く人間として、先ず自身が日々自己研鑽に励まなくてはいけない。裏返せば常に自分を磨き高める意欲と実践をなくした時、その人はもはや教える資格を失うという意味かと思っています。

本教育会では、はるか昔より先輩諸氏が上高井教育の進

展と教員の資質向上を目的に、全会員参加による各教科領域別の研究委員会での研究と、有志による同好会での研修を組織し、この二つを教育会活動の車の両輪にたとして極めて大事にされ、今日まで継続発展させてきてくれました。各種の講演会や実技講習会、読み合わせ、地域探訪、臨地講習、音楽のミニコンサート、美術・書道の作品制作・発表等々多彩な活動が展開され、今では地域の皆さんから期待されたり、一緒に参加していただけるなど、地域の中につきかり定着したものもあります。研究委員会とはまた一味違う内容・方法で自分の専門性を磨き高めると共に、他校の先生方と知り合ったり、先輩後輩の絆を深めたりして、

行った行事に合わせ、紹介していただいた本を子どもたちと味わい楽しむこともできありがたかったです。

世の中には、膨大な数の本絵本があります。その中から「これぞ！」という本を見つけるのは、時間もお金もかかり日々あまり余裕のない私たちにとって難しいところでもあります。しかし、お互いの「これぞ、一冊半冊ぐらい紹介してくださる方もいらつしやいます。」を、味わいのツボと共に教えていただけることは大変な喜びでした。

二つめは夏休みの同好会集中日に合わせ、「黒姫童話館」斑尾絵本美術館「見学を行いました。郡内の多くの先生方に参加

同じ上高井の小中学校に籍を置く仲間としてのより良い人間関係を育ててもらえたら大変有意義と思います。

上高井は範囲が狭く、遠い学校からでも車で十五分もすれば教育会館に集まって来られるという、他都市に比べて極めて良い地理的条件に恵まれていますので、学び楽しむ意欲と少しのズクがあれば、普通日の授業が終わってからでも定例研究会に参加することが十分可能です。

今年度も会員数四名の小世帯から三十名の大世帯まで、全部で十七分野、延べ二四七名の会員によって発足しました。会費会員で終わらぬように積極的に参加しましょう。（相森中）

いただき、松谷みよ子さんの世界「スーザン・バーレイ」さんの原画展をじっくり味わうことができました。

二年めを迎えた今年…さらに、素敵な本・絵本を探し求めて楽しく、和気あいあい勉強していければと思います。会員の先生方からは、パネルシアターの製作・ブックトークについて研修をしたいという希望もありますので計画していければと考えています。

どなたでも気軽に参加できる会だと思えますので興味のある方はぜひいらつしやいませんか？きつと、子どもたちとともに楽しめる本にめぐり逢えることでしょう。（井上小）

本校の宝④④

潤身の森

日滝小学校

年度末から新年度に移る時期、毎年、ばたばたと忙しく過ごしてしまふ。そんな時、プールと北校舎の間にある『潤身の森』の柔らかな芽ぶきの色に心を取り戻す。やがて、北校舎の廊下は、新緑の光に包まれ、暑い夏でも林を抜けた風がさわやかに吹く。緑の風にやすらぎを感じる。秋には、紅葉を楽しみ、落葉後の厚く積もった枯葉をさくさくと踏んで歩く心地よさを味わう。四季を通じて、ほんの一角ではあるが、大自然の味わいを感じる空間がこんな身近にあることを私たちは誇りに思っている。



もともと、『潤身』という言葉は、学校創設以来本校の精神として流れている。『徳潤身』からきている。（このことは、会報一八一号 本校の宝②⑤に詳しい）

子どもたちも、無意識にこの環境から建学の精神を学び、どんぐり拾いやクワガタ探しで自然と親しみ、二度とない子どもどもの時間を楽しんでいる。

あらためて、長い見通しのもとに環境を整えていただいた先人に感謝をし、私たちも豊かな森を育てるような深い教育実践を積み重ねていこう。（田所 道子）



校舎移転改築十周年の記念事業として昭和六十三年の秋から翌年三月にかけて、

火ばら談義

「ユヤ」と私



須坂小 齋藤俊道

綿内 剛美

今私は猫との「二人暮らし」である。人間の家族もいるが職場の関係でバラバラになつてしまつてゐる。だから猫と二人と言うのはおかしいかも知れないが「二人暮らし」なのである。猫の名前は「ユヤ」。「命名の由来はもう忘れたが、現在八歳人間で言えば五十代後半。私と同年代の雌で二人の生活は夫婦感覚な毎日なのだ。

朝、決まつた時刻になると(現在五時半)枕元に現れ、鼻や耳を引っ掻いて(決して痛くないように)目覚めさせてくれる。そして私の足にスリスリして朝ごはんをねだり、食べた後は私のお出掛けに合わせて庭石の上でお見送り。夕方は、車庫に迎えに出、玄関までイソイソ先立つて歩き、あとは食事も風呂もテレビも一緒に困るのは仕事などをしている、かまつてやらないと、わざと邪魔に入ること。膝に乗ったり、首にからみつきたり、本や書類の上にすまして座り込んでしまつたり色々である。寝る時は布団一つ、私の手枕でゴロゴログログラー、でも私が寝付いてしまつと朝までどこかへお出掛けの様子。浮気なのか睡眠の妨げにならないようにとの気遣いなのか、どっちにしろ利発なのである。

わが家の玄関にはユヤ専用の出入り口がある。お金のことを言うとお品でなくなつてしまつたが、メイドインアメリカで大工さんに取り付けてもらったかなり高価な代物である。時折、近所のはしたない猫どもが来て覗きこんでいるが、センサ―無しでは絶対に入れない。猫といえども、世間の厳しさを生きた大変さを味わつてゐるに違いない。来客はどなたも、このユヤ専用出入り口にはおつたまげて帰るのが常だ。

猫はプライドが高く、自分の気に入らない物は飢え死にしても食べない。そんな訳でユヤも口にするのはキャットフード、しかも柔らかくして味がよい缶詰物ばかり。私の一日の食事が七百元でユヤが千五百円なんてこともある。健康管理も定期的な予防注射は当たり前。咳だ、目や二た、擦傷だ、しょつちゅうベットの病院通い。二日入院したこともある。最近その病院が大改装された。見るたびに「二部屋ぐらゐはユヤのものだな」と思つてしまふ。そう言えど「綿内ユヤ様」で年賀状が届くようになった。こんなユヤと過ごす毎日は、とても穏やかで幸せな日々なのだ。(森上小)

私の趣味

中澤 光

「あなたの趣味は何ですか？」と聞かれたら、私は、月並みな答えではあるが、「音楽を聴くこと」と答えるであろう。高校生の頃から、地元が好きでアーティストが来ると、一人でもコンサートに出かけていた。就職をして、しばらく長野を離れてしまつていたが、ここ三、四年の異動で、松本や長野の近くに住むようになったことも影響して、自分の中での「音楽熱」が再燃した。大きな会場での野外ライブからホールコンサート、小さな

法は人に全能を求めるのか？

小林 巧

六月一日長崎県の小学校で痛ましい事件が起きた。同じく教育に携わる者として心よりお悔やみ申し上げる。事件が起きたのは、給食の準備の時間帯、発見は給食開始直後と報道されている。

このことに対して、元教員の教育評論家の〇氏が、以下のようなす評を寄せている。「この年代の児童は人間関係がこじれてトラブルが深刻化するのでは日常茶飯事で、担任は子供の变化に常に配慮する必要がある。給食の時間は授業時間と同じで、子供が二人いなくなつて、教員がすぐに気づかなかつたというのは理解できない。」

ライブハウス、時と場合によつて出かけていく場所は様々である。何の気なしに買ったチケットで、そのアーティストの虜になり、二度三度、地元だけでは満足できず、県外まで出かけてしまう場合もある。お気に入りのアーティストは数あるが、自分は、まだブレイク前のバンドを密かに応援するのが好きだ。音楽雑誌に取り上げられることはあつても、地上波テレビへの露出は少なければ少ないほど魅力があるように思う。自主制作

前半部分は良い。全くその通りである。問題は後半だ。給食の準備時間は教職員の勤務時間であるということなのだろうが、授業とはその様相が全く違つてゐる。

小学校も六年生ともなれば学校を取り回す主役であり、この時間帯は、給食当番・コンテナ当番・放送当番・臨時の委員会・担任以外の教師に用事のある者等々、実に多くの児童が教室を離れてゐる。平素当然、所用で教室を離れる際は担任に断るよう指導はしているが、この時間帯に全ての児童の動向を把握することは、一人の担任教師では不可能である。むしろ、先

CDが手に入り、小さい会場でライブをしてくればそれで充分である。要するに、「自分だけのお気に入り」感覚が心地よいのだ。

人が演奏しているのを聴いたり聴いたりしていると、自分もやつてみたいと思うのが人情というものである。実は、こちらに異動してくる直前の二月、引越しの荷物になるのにもかかわらず、ギターを買つてしまった。まだ、何も弾けないが、鏡の前でかまえてみるだけでも、いい気分である。また、ヘッドホンをつけて訳のわからない爆音を出すのもよいストレス解消である。これが弾きこなせたらどんなに格好がいいのだろうか？と思ひ

ほどの当番活動等のように、「いただきます」のあいさつをしてから全員が揃うのが必然と言えよう。

従来、その時間に不在の児童は学校運営に必要な何らかの仕事をしていると言う信頼関係に立つて学校は存続していた。この信頼関係が成り立たなくなつたのは、児童の様態の変化である。その変化を見抜くことも教師の仕事であるとして一歩下がつたとしても、変化に対応するシステムが構築されていない中(複数担任給食準備時間の延長による出席確認等)とても学校とは思えない光景になるが)での氏のご意見は不毛に処する。さらなる危険は、氏がマスメディア上で意見を述べたことで、親がこの教師が特別に手を抜いたと勘違いすることである。現場経験者の評論家

ながら、たまにクローゼットから引つ張り出してきては、入門書にらめつこしている目々である。まるで、中・高校生の男の子のような趣味であるが、自分を支えるちよつとした息抜きになつてゐる。「音楽を聴くこと」は続いてきたが、「自ら演奏すること」については、まだまだ始めたばかりであり、飽きっぽい性格なので、いつまで続くかわからない。しかし、バンドマンの夢がメジャーデビューならば、自分の夢は、歌手になつてみたい(？)主人を筆頭に、家族でバンドを組むことかなと密かに思つてゐる。(高甫小)

たる者、原則論はさておき、教育を改革するに足る、大局に立つた発信が求められる。(墨坂中)

編集後記

第200号という記念すべき会報を発行することができました。これも、お忙しい中、原稿をお寄せくださった会員の皆様のおかげです。本当に感謝申し上げます。

本年度も、会報発行は年二回、次の委員でお届けします。
委員長 朝間 春子(小山小)
副委員長 畠山 信重(相森中)
委員 森山 裕二(栗方丘小)
清水 幸子(須坂小)
大草 政子(森上小)
平野 恵保(仁礼小)
黒岩 和男(常盤中)
松澤智恵子(東 中)